

### 1 自己評価及び外部評価結果 (1号館)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人 社団誠淳会		
事業所名	グループホーム 青葉の家 1号館		
所在地	愛知県豊橋市嵩山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成21年11月 4日	評価結果市町村受理日	平成22年 3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「緑の中で家庭的な生活を」の理念に基づき、大規模施設や病院とは異なり家庭的な雰囲気の中、周辺の山・林に四季を感じながら自らも畑にて作物を育て収穫の喜びを味わい、生き物の飼育に携わり楽しみながらそれぞれの役割を持ち、生き甲斐の持てる第2の住いを目指している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年11月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活歴を把握した、見事な対応と生活の継続支援があり、利用者がその人らしく暮らし続けるための支援を改めて考えさせられた。開設から8年を経過するホームであるが、その経過年数であればこそ、経験と実績に基いた現在の支援なのである。平成18年度に評価にうかがった折には、さすがにここまで充実と落ち着きは感じられなかった事からも、管理者・職員の、サービスの質の向上に対する意識の高さと実行力がうかがい知れる。その人の生活の継続・習慣の継続を基本に、利用者にとって一番良い方法を考えるカンファレンスを週に一回開催し、状態・様子観察を行った結果を話し合い、その都度介護計画に反映させている。職員自身が、自分の親もホームを利用させたいと言い切る、その日々の努力を評価したいホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「緑の中で家庭的な生活」毎週の朝礼、月1回の部会等にて理念の再確認、実践に当たっての問題点を話し合い、成果について共有している。	ホーム理念に基き、職員間で意識の統一を図ると共に、実践についての具体的取り組みを話し合い、成果の確認を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の年間行事への参加、当事業所への誘い、ボランティアの受け入れ等により、日常的交流を図っている。	地域行事への参加、保育園との交流、ホーム行事への誘い、ボランティア受け入れ等、機会ある毎に地域との交流を考え、実践している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の参加を求める定期的会合を開催することで、質疑応答の機会を持ち適切な支援方法を学び、理解を深める機会を持っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催、より多くの御家族、地域代表、関係各位の出席のもと交わされた意見交換を今後のサービスに活かしている。	制度に沿った運用があり、定期開催、参加メンバー、協議内容にも何ら問題はない。利用者・家族の参加で、毎回10名以上が集合し、賑やかな会議となっている。	今年度からの外部評価軽減要件に、行政担当者または地域生活支援センター職員の、毎回の会議参加がうたわれている事から、来年度の取り組みにおいて、市担当との再度の話し合いが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市関係の方の訪問により、入居者と直接話をされたり、職員の対応を見て頂く事で理解を深め、より良い協力関係の構築に努めている。	ホームの運営にかかわる相談・報告、介護相談員の受け入れ等、ホームの取り組みを積極的に伝えている。特に市から派遣される介護相談員との関係は良好であり、相談員を通じた協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的講習会への参加において具体的禁止行為を学ぶ機会を設け、対応策を話し合いながら日々のケアに取り組んでいる。	研修会・勉強会参加で、身体拘束についての正しい知識を身に付け、身体拘束排除に向けた支援実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会での知識を活かしながら声掛け一つにしても、職員同士意見交換しながら意識した声掛けケアに努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的部会などにおいて学ぶ機会を持ち、具体的事例においてより理解を深め、関係者との話し合いの上より良い支援が出来る様努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべて書面にて十分な説明の上、納得頂いた上で署名・捺印をお願いしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的交流の場を設け質疑応答により、今後の運営に反映させている。	利用者の意見・要望については、日常での聴き取りに努め、家族意見についても、面会時・交流会・電話連絡時等での聴き取りに努めている。また、利用者・家族が運営推進会議に参加することで、外部者との意見交換をする機会となっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1度のミーティング、月に一度、部会という形で連絡・報告・意見交換などの場とし、より良い介護につなげている。	週に一度のミーティング、月に一度の部会等、一般職員が意見・提案できる場を確保している。意見交換も活発に行われ、職員の力でホームを良くして行こうという意識が高い。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との日々の会話をとおし信頼関係を作り個人を知ることで理解を深め、向上心を持てる様働きかけ職場環境の向上などに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間定期的講習会を開催し実践しながら職員同士スキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな勉強会・講習会に出席することは同業者との交流・情報交換の場となり、サービスの質の向上のために役立させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中から信頼関係作りをしながら、少しずつ本人の望む生活とは何か探りながら少しずつ要望に応える事で安心を確保する。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時アセスメントにて聞き取りを行い、面会の際近況を伝え、家族の思いを聞き取りながら信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人を取りまくさまざまな情報をまず聞き出す事により、本質を見極め必要なサービス提供に努める。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活のさまざまな場面において共に作業し、共に楽しみながら信頼関係作りを努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を多く持つ事で時には家族の協力を得ながら職員との関係作りを努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら外出の機会を持ち、本人との会話の中から馴染みの人、場所の情報を得ながら日常の会話の中に活かす事で心の安定を図れる様支援している。	家族・親戚、友人・知人の来訪も多く、本人が望めば自由に面会や外出ができる。手紙・電話の取り次ぎ、希望の場所への連絡等、関係継続支援の意味を良く理解した取り組みがある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	身体状況、性格をしっかり把握し生活上の様々な作業や、レク・外出等へ参加を促すことで関わり合い、支え合う機会を持ち孤立させない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設がある事もあり、退所後の本人、家族との関係が継続している場合は多く、必要に応じて家族の相談、支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から本人の思い、希望を聞き出す工夫をしながら、情報収集、カンファレンス開催時検討し、ケアプランに活かしている。	日常の会話・つづやき・行動等、本人の意向を把握する情報を収集し、介護計画に反映している。意思表示が困難な場合も、家族等と職員が本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報以外にも御家族が来所された折、さまざまな情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護詳細記録に日々の様子を記録する事で、職員同士共通の情報を把握し、個人ケアプラン作成に活かしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場の職員、家族、本人を支えカンファレンスを開催し本人の望む本人らしい暮らしについて話し合い、介護計画の作成に努めている。	利用者・家族を交えたカンファレンス開催に努め、本人の意向・希望を重視した、よりその人らしい生活を支援するための介護計画を作成している。意向・状態・状況に変化・変更が生じた場合は、随時見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護詳細記録に日々の様子を記録することで、情報を職員同士共有し、カンファレンス等で話し合い、モニタリング日々のケアに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームという少人数である利点を活かし、その時々ニーズにその都度柔軟に対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の持てる力を把握し、発揮できる場を提供し安全に楽しく生活できるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族または職員、NSの付添いのもと、日常生活などの情報も含めた受診により、かかりつけ医師との連携、信頼関係づくりに努める事で適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者・家族の希望する医療機関の受診を支援している。原則家族対応の受診としているが、ホーム対応の受診支援もある。各医療機関との関係は良好であり、利用者・家族の安心につながっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、様子観察の情報はすべてNSに報告、その都度家族、NS付き添いのもと受診されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の日常の様子、バイタル等受診時、主治医に常々報告、相談することで、日常の様子(健康状態)を把握していただけるよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見、家族の思いなど事前に話し合いを行っている。	ホームでできる支援の限界を説明し、できる限りの対応を行う方針がある。利用者・家族の意向や希望を重視し、事前に多くの選択肢を提示するのでもサービスの一環であると位置付け、法人関係施設との連携も図っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアル作りをし定期的に話し合い、確認を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入所者も参加し、定期的訓練を行うことで、入所の安全確保に努めている。	年2回の避難訓練を実施している。消防署・法人併設施設・地域の協力を得て、利用者の安全確保への意識を高め、もしもの場合に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを意識し尊重し、丁寧な言葉遣い思いやりの言葉掛けに努めている。	目上の方である事を常に意識し、利用者一人ひとりに応じた対応方法を考え、職員間で周知している。職員は、利用者とは「慣れあい」にならない関係を良く理解している。	職員ヒアリングにおいても、職員の意識の高さには感心できるものがあった。今後、新人職員採用の際にも、取り組みの周知を図り、「居心地の良い居場所」提供の継続をお願いするところである。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	クローズドクエションにならない様本人の思いや意志決定の出来る声かけの工夫に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話の中から本人の希望、思いを聞き出す事で、本人らしい生活が出来る様支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望であるなら、出来る限りの支援をし、工夫しながら本人の希望にそえるよう努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る範囲の協力をお願いしながら楽しく、準備、片付けを一緒に行っている。	時間になれば利用者が集まり、職員の声掛けを待たなくても、個々に役割を果たしていた。調理から後片付けまで、利用者のそれぞれの力を活かした役割があり、張り切って世話を焼く利用者の姿もあり、活気のある食事時間となっていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門家の作るメニューにより栄養バランスは確保されている。食べる量については本人の意向を聞きながら水分はなるべく多く摂って頂ける様、本人の好みを入れながら摂取している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個人の能力に応じた介助方法にて施行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導にて、排泄パターンを把握し習慣付ける事で自立に向けた支援を行っている。	トイレ排泄を基本支援として、利用者に合った支援を実践している。定時誘導・声掛け・見守り等、利用者の習慣に合わせた適切な支援がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動、水分摂取を行いながら排便チェックを行い、便秘時はNSの協力を得ながらマッサージ適宜下剤内服にて対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望を聞き入れ対応できるよう努める。	基本的には、共同生活の時間帯の中で、利用者の希望の回数・時間での入浴支援を行うこととしている。入浴拒否の場合も、清潔確保のために最低週2回の入浴を支援している	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく決め事をなくし、自分のペースで一日を過ごせる様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理表を作り、職員がいつでも確認出来る様にする事で情報を共有しチェック体制を整える事で誤薬防止に努め個々の状態観察に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人情報収集することで個別ケアプラン作成により、張りのある生活になる様支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	臨機応変な対応が取れる様体制作りに努め、地域の人々、家族の協力も得ながら定期的に遠出も計画実行している。	天気・気候に配慮し、日常的な近隣の散歩を行い、利用者の気晴らしと健康維持に活かしている。また、家族との協力で、本人の行きたい場所への外出・外食等を実現している事例もある。さらに、各ユニットでの行事外出等も企画し、利用者の楽しみを考えた支援実践がある。	利用者が「本当に行きたい場所」の支援を考え、一年の内に1回でも希望がかなえられる日を設定する等、現在の支援ができてからこそ、一歩進んだ支援が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の認知度に応じて外出時は自らによる精算を行う。本人の希望があれば職員同伴による買物にも出掛ける。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡、代筆、封書の投函すべて希望があれば支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室については本人、家族による家具類の配置であり職員は関与しない。 共用の場においては入所者による作品写真などの展示により居心地の良い場となる様努めている。	どのユニットも、窓からは余るほどの自然が感じられ、ホールで過ごす利用者の、のんびり・ゆったりに一役買っているようである。明るさ・広さ・空調にも何ら問題は感じられず、生活感あふれる共有空間は、利用者にとって居心地の良い場所である事が推察できる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー椅子に自由に座って思い思いに過ごされる空間・環境作りに努め、独りになりたい方は自室にて過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時本人・家族によりなじみの家具類配置 職員も助言しながら本人にとって居心地の良い空間作りを行っている。	サービス利用開始時に、家族に説明と依頼を行い、本人が安心して過ごせる居室作りに努めている。家族の理解・協力と、利用年数の経過でも馴染みの家具は増え、本人にとっての居心地の良い空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレ等の場所には名札、その他目印となる物を貼布する等して自立を促している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (2号館)

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人 社団誠淳会		
事業所名	グループホーム 青葉の家 2号館		
所在地	愛知県豊橋市嵩山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成21年11月 4日	評価結果市町村受理日	平成22年 3月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

外の空気に触れ気分転換を図る為、ドライブに行ったり畑にて野菜を作り、収穫の喜びを味わっている。
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年11月25日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>入居者とともに洗濯を干したりたんだり食事の下準備をしている。</p> <p>野菜作りをし収穫を共に喜び味わっている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に出席したり、こちらの行事に招待している。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>推進会を2ヶ月に一度行い、状況を話しあっている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活かしています。時には入居者も参加し話しの中に入れてもらう。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市介護相談員の方が月1回訪問され、利用者との話をしたり職員にもケアの事を色々聞かれています。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入居者の生活の仕方や周囲を大切にして、その人らしさを支えながらケアして行く。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>週一回の朝礼又部会カンファレンスの時に話し合い、お互い困った時のアドバイスの声のかけ合いを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部会にて権利擁護に関する事、又成年後見制度について学び、入居者個々の対応ができる様支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族から入居者の課題等を聞き理解しながら支援を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との連携を大切にしている。地域との連結調整をしている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その人らしい暮らしを続けるための、日々の支援をしている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の会話を通して信頼関係を作り、個人を知ること理解を深め向上心を持てる様働きかけ、職場環境の向上などに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間幾度かの研修会を行い全職員が出席しレポートを提出している。 又市の研修にも出席をし報告伝達している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じホームとの情報交換をし必要部分を取り入れ、お互いにサービスの質の向上にむけて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居してしばらくは不安不穏が続く中で、本人がどうしたいか要望を聞いている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所時家族の要望、入所者の希望に傾聴し良い関係作りに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期担当者会議に本人に出席して頂き、希望にむいたサービスの対応に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>まず自分が介護される場合、こんな事はしてほしいと思う気持ちを持ち、一緒に歩いて行こうと思う。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と連絡を取り良い方向性を作り、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>どんな小さな事でも本人にはとても大きな大切な物と受け止め、支援に努めている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同時で輪になり、唄ったりゲームをしたりして、話の出来る様努力しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院した時面会に行き、その時々々の楽しみをお話したりし、関係を大切に相談や支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子観察をし、本人との心のケアに取り組み場合によっては家族との連絡調整を図り、本人の心を大切にしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで一人住まいされていた方たちの生活状況を取り入れながら、サービスの経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックにより一人ひとりの体調に合わせ、その日その日の過ごし方を職員全体で把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に本人が出席し意見を聞き、又家族と共に信頼関係を作り、意見交換をしい介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日その都度、入居者の状況を把握し申し送りノート等に記帳し、職員全体に情報を共有し実践や介護計画の見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日一人ひとりの状況やニーズに対応し、それぞれのサービスや多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園や小学校の児童たちと運動会や夏祭りを招待し合い、安全で豊かな暮らしに取り組み支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の都合により受診できない時は職員がつきそい、かかりつけ医との関係を築きながら体調管理に努めている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	良い情報は職員同士又家族の情報を大切に交換し合い、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したさいはサマリを詳しく書き、又退院の時は相手方の病院の情報をいただきそれにしたいケアに向けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時、家族や管理者に連絡し、その都度指示を頂きそれに従う。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習に出席し、職員全体に報告し指導し異常時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルにそい、その都度話し合っている。年2回の防災訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドの高い方が見えたり自分の主張をはっきり出される方が沢山おられ、その都度対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる方にはそのむねを聞き出せる様、働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの性格を把握し希望を優先し、その人の生活を大切にその人らしい暮らしをして頂いています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容へ家族と行かれる方は、家族の方とおしゃれを楽しまれております。又、出張で床屋さんが見えるので本人の好きなようにお願いしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に同じテーブルで食事をし、片づけ等をお手伝いいただいています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定を基準に食事カロリーを考え又体調管理を重点に支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の力に合わせて、口腔をしています。本人が無理な時は職員が手をそえています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツへの支援にトイレ誘導を早目に誘導し、その方のパターンを細かく作る。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを元に漢方薬を用いたり、繊維質のものを食べていただいたり工夫しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の好きな方には毎日希望を聞き、気持ちよさを楽しんで頂いています。その時により午前であったり午後であったりしています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が寝るといわれれば寝ていただき、テレビが観たいといわれれば21:00頃まで楽しんで頂いています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用を見て、飲み物や食事管理をし一人一人の薬品体調管理をしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶わんを拭いたりおぼんを拭いたり、それぞれの得意としている人に役割分担をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1、2度ドライブに行ったり外食したり、又、家族の方が外食に連れて行かれたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方が本人に渡され金額を申し出て行かれたり、小銭を持たせお金を持つ喜びをされています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月、母の日等、子供さんからの贈り物に返事を出したり、正月には声を聞いてもらえる様電話をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、風呂ドアとそれぞれのところに大きな字で案内しています。 壁には壁画等で季節感を出しています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り気の合った方同士が話をしたり、笑ったりテレビを観て穏やかに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意志にまかせ家具等の設置に工夫し、家族の方と相談し居心地よく過ごせる空間を作っています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きく書いたり自由に居室出入りが出来るように名前を貼ってあります。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (3号館)

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人 社団誠浄会		
事業所名	グループホーム 青葉の家 3号館		
所在地	愛知県豊橋市嵩山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成21年11月 4日	評価結果市町村受理日	平成22年 3月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「緑の中での家庭生活をする」を理念としている。四季を通じ自然に恵まれた環境の中での野外活動にて、自然の草花・実などの採取をしたり、畑・プランターでの野菜栽培の収穫を楽しみ、小鳥のさえずりの中で第二の生活の場として過ごして頂いている。
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年11月25日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>季節ごとの行事に参加したり、四季の移り変わりを感じられる場所に車で出掛けたりしている</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に参加し、保育園児とも交流しながら暮らしている</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>やまびこ新聞を発行し、御家族の方々や地域の人に読んで頂いている</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での内容を報告し合い、意見交換を行っている</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を開き、地域の方々に出席して頂き理解して頂いている</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をすることなく毎日のケアに取り組んでいる</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設部会、カンファレンスで講習が開かれており、職員は学習し、支援に於いても取り入れている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会があり、制度に対する理解をしている。また、必要時には知識を活用し支援している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	権利擁護を必要な利用者については、本人や家族に説明し、理解をして頂き、意向を基に社会福祉協会の協力を得て行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を置いたり推進会議に地域の方、利用者の家族に出席していただき、利用者・職員を交えて意見交換している		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会・カンファレンス・リーダー会議等により、意見を出し合い運営企画を行っている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務上での言動に留意し、また会話の場所を設け、信頼関係を深め、各自が向上心を持ち職務に就く様、職場環境に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会、部会を行い研修の機会を持ち、職員の質の向上に努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な同業者との交流活動があり、出席することにより情報を得て、より一層のサービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族の訪問時、何でも言って頂ける様な雰囲気作り心掛けています		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・御家族に見学に来て頂き、安心感を持ってもらう様にしています		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談事・本人や家族の思いを確認し、可能な限り対応している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に於いて一緒に軽作業をして頂き、会話をしながら和やかな生活を送って頂いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えていく上で、家族の思いと職員の思いをきめ細かく結びつき合い、協力し合える様にしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達など面会等いつでも自由できるように配慮している		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態、感情の動きが常に変わっているため、視野内に於て注意深く見守り、職員が中に入り関わって良い関係になる様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても面会に行ったりしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けにて行動・表情から把握している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な生活歴を家族から情報を得て、施設生活を支援して行く上での計画・目標にすべて説明し協力を得ている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一回バイタルチェックをして、血圧・体温等を毎朝測っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月二～三回のカンファレンスを行っている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを作り、変化の状態を記入している。バイタルチェック、食事量、排便等		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族や本人の要望を取り入れたり、変化があった時等に状況に合ったサービスを行う様に見直し検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の行事には地域のボランティアの方々や幼稚園や教育機関などの交流を持ち、地域社会に接点をより多く持つ様に支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同行受診が基本だが、やむを得ぬ時は職員が代行している。かかりつけの病院や複数の医療機関との関係を密にしている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医に相談しながら指示をもらっている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人の気分の落ち込みを防ぐため、入院先に訪問し、コミュニケーションを取ったり、医療機関へ本人の情報を提供し、早い回復につながる様支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来る範囲内で最大のケアを行う説明を行っている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生手当や蘇生術の研修を実施している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練・消火器の使い方などの訓練を定期的実施している。地域の方も一緒に参加して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のないよう言葉使いに注意し、記録・個人情報の保護に努めている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声掛けをする事で、意思表示や自己決定が出来るよう支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分に合わせて、一日をどの様に過ごすか柔軟に対応している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに合った身だしなみを自己決定していく事で、満足のいく様に支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳片付けなども、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、和やかに食事が出来る雰囲気作りを大切にしている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて食べ易く刻んだり、必要に応じて随時水分補給も行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄やうがい薬を使い、本人の状況により見守り介助をしながらうがいをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の立場を考え、プライバシーを守りながら対応する様に心掛けている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしたり、体の様子を見ながら運動や外気欲を心掛けている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体の調子を良く見て、無理の無い体勢で気分良く入浴出来る様に対応している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度・寝具の汚れなど注意をし、安全を確保している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者(本人)の氏名と服薬状況を、常によく確認し、対応を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に見合ったレクリエーション、共同で出来る事を心掛け対応している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者に合った外出を考慮し、無理の無い家族との交流や地域の人とのふれ合いを大切に出来る様心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好みの食べ物・ほしいものを隣接している施設の売店で買えるよう支援している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望により電話を掛けたり手紙をポストに出したりして外部との交流を支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでのくつろぎを大切に、事業所の周りの環境にも恵まれた山や木々による季節感を利用し、行事・活動を行っている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が各々安楽な空間を作って生活をしている。自室で一人で過ごす時間が持てる様に支援している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族と話し合い、利用者の必要なものを可能な範囲内で置き、生活の不安不穏が無い様にしている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なことが無い限り自由に暮らして頂き、個人の生活を尊重している。入居者の得意な事を各自発揮出来る様工夫し支援している		

## 目標達成計画

作成日：平成22年3月31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	車イスの方が多く自立歩行も見守り介助が必要な人が多い。 転倒の注意が必要な人が多い	天気の良い日は全員必ず散歩に行く、週1回月1回と買い物やドライブなど楽しむ	午前中に全員が外に出られる様に職員同志協力していく。体調を確認し、車にて本人の希望に合わせて、行きたい所など少人数で行く	6ヶ月
2	63	家族が忙しい為、面会に来て頂けない方がいる	全員の家族に面会に来て頂き、現状を常に把握してもらいコミュニケーションをとっていく	入居時に心配な事など、傾聴し安心して頂き、常に状況を報告し信頼を築いていく	6ヶ月
3	65	運営推進会議時、地域の役員さんの都合が合わない時がある	多くの方に出席して頂いて、意見など参考にしていく	H21年9月より地域包括支援センターの職員さんが参加して頂き、意見交換が出来ている	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。